

# 自由民主党

ご相談やご意見、ご要望のある方はお気軽にご連絡下さい。

## 衆議院議員 田中かずのり

衆議院議員田中和徳事務所  
TEL:03-3508-7294  
FAX:03-3508-3504  
<http://www.tanaka-kazunori.com>  
E-mail:k-tanaka@kamome.or.jp



## 国政報告書第281号

# 2025年問題の最重要は医療・介護制度

## 1. 2025年問題：高齢者急増による公的社会保障制度の継続性

- ◆2018年度の国家予算の歳出では、社会保障費が約33兆円と突出、歳出の3分の1を占める。
- ◆公的社会保障の給付の内、保険料で賄いきれない額を、毎年、国家予算より繰り入れている。
- ◆今号では、社会保障の内、医療と介護のみ紹介し、年金やその他の分野は別の号で紹介する。

### 医療・介護の現在の公的給付費と2025年度の比較

2025年度、全ての団塊世代が後期高齢者になり、公的社会保障費用が急増

#### 2015年度の医療・介護の公的給付

#### 2025年度の医療・介護の公的給付

**医療：約37.1兆円**

**医療：約53.8兆円**

保険料支出分：20.7兆円

保険料支出分：28.5兆円

国庫負担分：16.5兆円

国庫負担分：25.3兆円

**介護：約9.1兆円**

**介護：約20.0兆円**

保険料支出分：4.6兆円

保険料支出分：10.0兆円

国・地方負担分：4.6兆円

国・地方負担分：10.0兆円

- ◆保険料と税金を払い、公債も増加、社会保障を支える現役世代の国民負担率が毎年増加。日本政府の公的財政も、多額の国債(=借金)を抱え、先進国の中で最悪の状態に突入。
- ◆日本経済は回復基調にあり、税収も伸びたが、社会保障費の増加の伸びを賄うには不十分。経済成長を図りつつ、社会保障費の増加を抑えなければ、制度の継続に赤信号が灯る。

## 2. 2015年度の1年間の国民医療費の現状

- ◆日本の国民医療費の約6割が、全人口の4分の1ほどの高齢世代によって費やされている。一人当たりの国民医療費で見ても、高齢世代の医療費は他の世代に比べて突出している。

◀世代別の医療費総額と、人口一人当たりの医療費（2015年度）▶

0～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳以上	全世代合計・平均	
2.5兆円 (6.0%)	14.7兆円 (34.7%)	10.0兆円 (23.5%)	15.2兆円 (35.8%)		42.4兆円
15.9万円	19.0万円	56.8万円	92.9万円		33.3万円

### 3. 持続可能な公的医療制度の早急な構築に向けて

- ◆当初、2016年度から18年度の3年間で、政府予算の社会保障関係費は約1兆9400億円増加する見通しだったが、様々な取組みにより、政府は増加分を約1兆5000億円まで抑制した。
- ◆政府は今後も、下記の様な取組みを通じて、社会保障費の増加に歯止めを掛けていく。

#### (1) 応分負担の推進

- ◆国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療で、低所得層の保険料軽減を図る一方、高所得者の自己負担上限額を引き上げるなど、その人の経済力を反映した応分負担措置を推進する。

#### (2) 地域包括ケアシステムの推進



- ◆地域包括ケアシステムで、地域の高齢者がそれぞれどんなサービスを必要としているかを地域の関係機関で情報共有し、医療・介護サービスの充実と効率化を両立させる。

#### (3) 健康寿命延伸に向けた積極的な取組み

##### 政府が掲げる健康寿命の延伸目標

2013年の日本の健康寿命  
男性71.2歳、女性74.2歳

2025年の健康寿命目標  
男性72.4歳、女性75.6歳

- ◆日本の平均寿命は、男性が80.98歳、女性が87.14歳で、香港に次いで世界第2位の長寿。
- ◆『健康寿命』とは、人が他者の助けを必要とせず、自立して生活を営める期間を指す。高齢者が増えれば、その分だけ健康寿命を終えた人々が増え、入院治療や介護が必要となる。
- ◆健康寿命を延伸することは、自立した自分らしい充実した人生を長く歩むことに繋がる。そして、医療・介護費の急増に歯止めを掛け、社会保障の持続可能性を高めることにも資する。

##### 健康寿命延伸に向けた啓発活動『Smart Life Project』

- Smart Check** … 早期検診・早期発見で病気の重篤化を防ぐ。
- Smart Eat** … 野菜を1日に70グラム余分に食べて食生活を改善する。
- Smart Walk** … 1日に10分間、余分に歩くことで運動不足を解消する。